

# 令和5年度 第43回東北地区小中学校教頭会研究大会福島大会参加報告

青森市立浪打中学校  
武井 まゆみ

- 1 日時 令和5年11月9日（木） 分科会（1 A分科会に参加） 会場：ホテルハマツ  
11月10日（金） 開会式・記念講演・閉会式  
会場：けんしん郡山文化センター

## 2 分科会の発表（1 A分科会：教育課程に関する課題）

- ①主題：特色ある学校づくりを進めるための教育課程の編成と実施について（1年次）  
副主題：地域とのネットワークを生かした活力ある教育活動づくり  
発表者：宮城県栗原地区教頭会 栗原市立栗原中学校 小杉光洋

- 栗原市内の教育活動
  - キャリア教育・職場体験
  - 異年齢交流
  - 自然体験学習
  - ふるさと学習
- 教頭の役割
  - 校内での情報共有と連絡調整
  - 準備時間等の確保
  - 地域とのつながりづくり
- 課題
  - 学校と地域、双方の負担感
  - コロナ禍で希薄になったつながりの再構築

- ②主題：社会に開かれた教育課程の実施に関わる教頭の役割  
副主題：地域とともに歩む学校づくりに向けた取組  
発表者：福島県西白河地区教頭会 西郷村立小田倉小学校 鈴木英雄

- 研究内容
  - 教育活動と地域の教育力のコーディネート
  - 社会に開かれた教育課程の編成・実践・評価
  - 地域の人的・物的な教育力の洗い出し
  - 教育効果を高める地域の教育力の生かし方
  - 地域の教育力を継続的につなげていく工夫
  - 地域連携担当教員を中心とした組織づくり
  - 教育課程の実施と学校評価
  - 家庭や地域との連携及び協働
- 成果
  - 教頭の連絡調整により、村内8小中学校が指導計画に沿って計画的に実践
  - 村教頭会で班研修会や情報交換を行い、実践内容の共有化や分析を実施
  - 村地域学校協働活動本部事業開催で、コーディネーターと担当職員が4月に情報交換
  - 地域コーディネーター・地域連携担当職員・教頭の連携で、より効果的な教育課程を実施
- 課題
  - 学習の定着に効果が見られなかった
  - コーディネーター・担当職員との連絡調整の時間確保
  - 次世代の人材の確保

## 3 グループワークで出た話題（青森県中1、山形県小1、福島県小4・中1）

- 地域との連絡調整について
  - ・学校運営協議会の実施状況に地域差あり。地域とのつながりが強い地区は、CSDや委員、地方議会の議員にお願いして人材を見つけてもらっている。
  - ・CSDや委員、地域コーディネーターは地元の企業や自営業の方はやってくれる可能性大。会ってみてやってくれそうかが分かるので、会う機会は大事。
  - ・地域の人に、学校のために尽力したいと思う人材を引きつける情報発信が必要。
  - ・学校も地域のためにできることをやる。祭りへの参加、町内会の活動に参加など。
  - ・高齢化は深刻。地域内のパワーバランスには配慮が必要。

## 4 助言

- ・CSの導入率は、令和4年度で49.2%。カギはコーディネーター・地域連携担当職員、そして教頭がうまく関わる。コーディネーター・担当職員の役割を組織に配置する。
- ・子どもたちに育みたい力を明らかにして、目標を地域と共有し、教育課程を編成することが必要。